法華経　日めくり

令和５年 癸卯

２０２３年

10 月　1 日

赤口　昴

旧８月 17 日

日曜

妙法蓮華経譬喩品第三

利益一切（りやくいっさい）

「一切を利益す」

一切の利益を求めるのは難しいものです。ある人には利益があっても、他の人が迷惑を被っていることがあるかもしれません。安価な商品が安易に手に入るのは、生産者が買いたたかれたり、自然破壊の上に成り立っているのかもしれません。仏さまの智慧と慈悲を身に着けられるようにと励み、一切の利益・世界ぜんたいの幸福を目指しましょう。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月　2 日　月曜

先勝　畢
旧８月18日

妙法蓮華経譬喩品第三

而生三界（にしょうさんがい）　朽故火宅（くこかたく）

「朽ちた火宅のような三界に生まれ」

「三界」とは衆生が生死を繰り返し輪廻する世界

①欲界…肉体と欲望を持つ私たちが住んでいる
　この世界

②色界…肉体はあるが欲望が無くても自然のまに生きていられる世界

③無色界…肉体も欲望もなく、心だけで住んでいられる世界

三界は迷いと苦しみに満ち、安住の地でないことを「朽ちた火宅」に譬えています。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月　3 日　火曜

友引　觜
旧８月19日

妙法蓮華経日宇喩品第三

四苦八苦（しくはっく）

「この世は苦が満ちている」

「生・老・病・死」の四苦に次を加えた八苦。
「怨憎会苦」とは怨憎せる人と一緒に過ごさなければならないときに受ける苦痛。
「愛別離苦」とは自己ga愛するものと別れなければならない苦痛。
「所求不得苦」とは自己ga欲求するものを獲得できない苦痛。
「五陰盛苦」とは色・受・想・行・識の五蘊から生じる身心の苦悩。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 4 日 水曜

先負 参
旧８月20日

妙法蓮華経譬喩品第三

歓喜遊戯（かんぎゆうけ）

「面白いことを求めて遊び惚ける」

苦が満ちているこの世の中に始終浸かっていると、その苦に気づくこともなく、何か面白いことがないかと求め続ける人がいます。あるいは、苦しみを忘れるため一時の楽しみを求めて享楽的に過ごす人がいます。苦の根源を明らかにしようともせず、楽しみだけを求めても、それは本当の楽しみではありません。一時の楽しみが新たな苦しみの根源になるかもしれません。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月　5 日　木曜

仏滅　井
旧８月21日

妙法蓮華経譬喩品第三

令其遊戯（りょうごゆうけ）

「其れをして遊戯せしむべし」

楽しみを求めて遊び続けている人々を見て、お釈迦さまはこの人々の親として、何とかして救おうとお考えになりました。

「其れをして遊戯せしむべし」とは、いかなる境遇にも流されず冷静に真実を見極める仏さまの智慧を与え、楽を得させることです。

私たち凡夫の生活と仏さまの悟りとはあまりにも離れすぎているので、最初に解かりやすい喩え話から諭されたのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 6 日 金曜

大安　鬼
旧８月22日

妙法蓮華経譬喩品第三

何由能解（がゆうのうげ）　仏之智慧（ぶっしちえ）

「何によってか能く仏の智慧を解からん」

四苦八苦・憂悲・苦悩の中に生を送っている私たち凡夫は、三界の火宅の中で焼け死んでしまうかもしれないのに、気づかずに過ごしています。

そのような者に仏さまの尊い智慧を理解させるのは容易なことではありません。

はじめから難しい話をしてもわからないので、浅い教えから深い教えへと説かねばならないと、お釈迦さまは繰り返し説かれます。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月 7日 土曜

赤口 柳
旧８月23日

妙法蓮華経譬喩品第三

声聞（しょうもん） 辟支仏（ひゃくしぶつ） 仏乗（ぶつじょう）

「火宅から衆生を救う乗り物『三乗』」

火宅から衆生を救う「三乗」として、「声聞乗」「辟支仏乗」「仏乗」が示されます。「菩薩乗」とせず「仏乗」と示されています。「菩薩乗」は菩薩しか乗れず、声聞・辟支仏の二乗が取り残されてしまいます。一仏乗はあらゆる人々（一切衆生）を差別なく仏の悟りに至らせる乗り物（教え）です。そのため、ここでは「菩薩乗」ではなく「仏乗」と表現されているのだと考えられます。

妙法蓮華経譬喩品第三

智慧波羅蜜。大慈大悲。常無懈倦。恒求善事。利益一切。而生三界。朽故火宅。為度衆生。生老病死。憂悲苦悩。愚痴暗蔽。三毒之火。教化令得。阿耨多羅三藐三菩提。見諸衆生。為生老病死。憂悲苦悩。之所焼煮。亦以五欲財利故。受種種苦。又以貪著追求故。現受衆苦。後受地獄。畜生餓鬼之苦。若生天上。及在人間。貧窮困苦。愛別離苦。怨憎会苦。如是等種種諸苦。衆生没在其中。歓喜遊戯。不覚不知。不驚不怖。亦不生猒。不求解脱。於此三界火宅。東西馳走。雖遭大苦。不以為患。舎利弗。佛見此已。便作是念。我為衆生之父。応拔其苦難。与無量無辺。佛智慧楽。令其遊戯。舎利弗。如来復作是念。若我但以神力。及智慧力。捨於方便。為諸衆生。讃如来知見。力。無所畏者。衆生不能。以是得度。所以者何。是諸衆生。未免生老病死。憂悲苦悩。而為三界。火宅所焼。何由能解。佛之智慧。舎利弗。如彼長者。雖復身手有力。而不用之。但以慇懃方便。勉済諸子。火宅之難。然後各与。珍宝大車。如来亦復如是。雖有力無所畏。而不用之。但以智慧方便。於三界火宅。拔済衆生。為説三乗。声聞。辟支佛。佛乗。而作是言。汝等莫得。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 8 日 日曜

寒露
先勝 星
旧８月24日

妙法蓮華経譬喩品第三

勿貪麁弊（もっとんそうへい） 色声香味触也（しきしょうこうみそくや）

「麁弊の色声香味触を貪ることなかれ」

目に見える色・耳に聞こえる声・鼻で嗅ぐ香り・舌で感じる味・手に触れる感触などに、執着しすぎると欲望が膨らみ、それに伴いたくさんの苦しみが生まれ、火宅の炎に焼かれてしまいます。

お釈迦さまは三種の車を用意してあるので、自分に合った乗り物を選び火宅から出るようにと誘い、段々に大きな車に乗り換えるようにと促しているのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月 9日 月曜

友引 張
旧８月25日

妙法蓮華経譬喩品第三

根（こん）

「信仰の根本となる五根」

「根」とは信仰の根本となる次の五つ。
①信根…まず信じなければ実行できない。
②精進根…迷いのない心で信仰を増進する。
③念根…信をいつまでも持ち続けること。
④定根…心が揺らぐことなく定めること。
⑤慧根…すべての真実の相を知ること。
以上の「五根」が迷いのない状態にあるようにと努め、どんな境遇に置かれても正しい行いができるように心がけましょう。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月10日 火曜

先負 翼
旧８月26日

妙法蓮華経譬喩品第三

力（りき）

「間違った思想を打ち破る五力」

「根」が定まると五つの「力」が生じます。
①破邪信力…間違った信仰を打ち破る力。
②破懈怠力…怠ける心を打ち破る力。
③破邪念力…小事に囚わる心を打ち破る力。
④破乱想力…心の散乱を打ち破る力。
⑤破諸惑力…諸々の惑いを打ち破る力。
以上の「五力」を身に着けることによって間違った思想を打ち破り、正しい道を歩んでいくことができるのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯

２０２３年

10月11日 火曜

仏滅　軫

旧８月27日

妙法蓮華経譬喩品第三

覚（かく）

「覚りを得るための七覚支」

覚りを得るための七つの方法「七覚支」。

①択法覚支…正しい教えを選ぶこと。

②精進覚支…正しい教えを信じ行ずること。

③喜覚支…心の悦びが行動に表れること。

④軽安覚支…心軽く苦しみに負けないこと。

⑤念覚支…信をいつまでも持ち続けること。

⑥定覚支…心が揺らぐことなく定めること。

⑦行捨覚支…欲を捨てること。

「七覚支」によって覚りに近づきましょう。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月12日 木曜

大安 角
旧８月28日

妙法蓮華経譬喩品第三

道（どう）

「悟りに至るための道八正道」

悟りに至るための道「八正道」。
①正見…正しい物の見方。
②正思惟…正しい考え方。
③正語…言葉に表れることが正しいこと。
④正業…日々の行いが正しいこと。
⑤正命…正しい生活をすること。
⑥正精進…正しいことに全力を注ぐこと。
⑦正念…正しいことを心に念じること。
⑧正定…正しい心を保つこと。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月13日 金曜

宗祖御会式
赤口 亢
旧８月29日

妙法蓮華経譬喩品第三

便得無量　安穏快楽

べん とく む りょう　あん のん け らく

「無量の安穏快楽を得べし」

「根」「力」「覚」「道」の様々な条件が具うことになれば、どのような境遇に置かれても惑わされることがなくなります。
そして心は安らかになり、真の快楽を得られるということです。
仏道修行を進めることによって、自己の苦しみから解放され、他者を悩みから救うことが喜びとなってくる。
それが「無量の安穏快楽」ということです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月14日 土曜

先勝 氏
旧８月30日

妙法蓮華経譬喩品第三

内有智性（ないうちしょう）

「内に智性有り」

「声聞」は仏さまの教えを聞いて世の中の無常を感じ、世間に囚われない心を育みます。ただ聞くのではなく、仏さまの智慧を自分のものにしようと強い意志＝「智性」を内に持って聞くのが「声聞」です。

「智性」を内に持つというのは、仏の道を目指そうと発心したことです。

その発心がなければ、何万冊の本を読んでも趣味の域で終わってしまいます。

妙法蓮華経譬喩品第三

舎利弗。如来復作是念。若我但以神力。及智慧力。捨於方便。為諸衆生。讃如来知見。力。無所畏者。衆生不能。以是得度。所以者何。是諸衆生。未免生老病死。憂悲苦悩。而為三界。火宅所焼。何由能解。佛之智慧。舎利弗。如彼長者。雖復身手有力。而不用之。但以慇懃方便。勉済諸子。火宅之難。然後各与。珍宝大車。如来亦復如是。雖有力無所畏。而不用之。但以智慧方便。於三界火宅。拔済衆生。為説三乗。声聞。辟支佛。佛乗。而作是言。汝等莫得。楽住三界火宅。勿貪麤弊。色声香味触也。若貪著生愛。則為所焼。汝等速出三界。当得三乗。声聞。辟支佛。佛乗。我今為汝。保任此事。終不虚也。汝等但当。勤修精進。如来以是方便。誘進衆生。復作是言。汝等当知。此三乗法。皆是聖所称歎。自在無繫。無所依求。乗是三乗。以無漏。根。力。覚。道。禅定。解脱。三昧等。而自娯楽。便得無量。安穏快楽。舎利弗。若有衆生。内有智性。従佛世尊。聞法信受。慇懃精進。欲速出三界。自求涅槃。是名声聞乗。如彼諸子。為求羊車。出於

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 15 日 日曜

先負　氏
旧９月１日

妙法蓮華経譬喩品第三

楽独善寂（ぎょうどくぜんじゃく）　深知諸法因縁（じんちしょほういんねん）

「日常のすべてから気づく縁覚」

「楽独善寂」とは、世間の影響を受けない、人の言うことに左右されないということ。

「深知諸法因縁」とは、あらゆる事柄には様々な因縁があり、それぞれの結果が生じ、変わっていく有様を深く考えること。

そのような修行者を縁覚(辟支仏)といいます。

縁によって覚るとは、日常の経験と仏さまの教えを縁として気づくことです。ただし、自らが仏に成るという気づきには至りません。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月16日 月曜

大安 房
旧９月２日

妙法蓮華経譬喩品第三

名為魔訶薩（みょういまかさつ）

「仏さまのようにこころの大きな人＝菩薩」

「魔訶」とは大きいこと、「薩」は人という意味で、「魔訶薩」は仏さまのように心の大きな人、つまり菩薩のことです。
仏さまの智慧を身に着けようと励み、一切の人を救うために教えを説き、その苦しみから脱せしめるようにと努めるのが菩薩行です。
自分の修行のみに没することなく、天下の事ばかり論じるのでもなく、互いに助け合い一切の人を救おうと思えば智慧も進むのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月17日 火曜

大安 心
旧９月３日

妙法蓮華経譬喩品第三

等以大車（とういだいしゃ）

「等しく大車を与える」

「大車」とは「大白牛車」つまり法華経のこと。長者は、「羊車」「鹿車」「牛車」の三車を示して火宅の外に子供たちを誘い出した後に、三車ではなく「大白牛車」を与えました。

「牛車」つまり菩薩行に励むだけで止まることなく、仏に成るまで力を緩めてはいけないと諭す意味が「大白牛車」にはあるのです。

法華経を読むだけで仏に成れるのではなく、常に菩薩行に励んだ先に成仏があるのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月18日 水曜

赤口 尾
旧９月４日

妙法蓮華経譬喩品第三

以仏教門（いぶっきょうもん）　出三界苦（しゅっさんがいく）
怖畏険道（ふいけんどう）　得涅槃楽（とくねはんらく）

「火宅から脱した子供たち」

仏の教えという門を通り、険しい道を経て、火宅から脱し、悟りを得て心安らかになった子供たちの様子を表した箇所です。父親である長者＝お釈迦さまは子供たちが、二乗の智慧で満足することなく、また菩薩行だけで止まることなく、自分が仏に成ることができる存在であることに気づき、真の仏の智慧を得られるようにと見守ってくださっているのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月19日 木曜

先勝 箕
旧９月５日

妙法蓮華経譬喩品第三

其宅久故（ごたくくこ）　而復頓弊（にぶとんべい）

「その家は古く荒れていた」

家が古くなり手入れを怠ると荒れてきます。荒れた家は、正しい教えを知らない人間の心や世の中のあさましい姿を現しています。煩悩五欲のとりことなって、人を押しのけ、蹴落としても平気でいる。荒れた家に暮らしている者はその異様さに気づかない。だからこそ、ことさらに獣や虫、鬼の有りさまを通しその醜さを描き出しているのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 20 日 金曜

友引 斗
旧９月６日

妙法蓮華経譬喩品第三

鵄梟鵰鷲　烏鵲鳩鴿

（しきょうちょう じゅ　う しゃっこ ぐう）

「実力以上に高みを目指す鳥たち＝慢心」

ここからは火宅に巣くう獣や鬼の解説です。「鵄」はトビ、「梟」はフクロウ、「鵰」はオオワシ、「鷲」はワシ、以上四種は大型の鳥。「烏」はカラス、「鵲」はカササギ、「鳩」はハト、「鴿」はドバト、以上四種は中型の鳥。鳥は高いところをめがけて飛ぶものですが、天上まで飛べるわけではありません。鳥が高く飛びたがるさまを、実力以上に自分を高く評価する「慢心」に喩えています。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 21 日 土曜

先負 女
旧９月７日

妙法蓮華経譬喻品第三

蚖蛇蝮蝎（がん じゃ ふっ かつ）

「すべてを破壊する毒＝瞋り」

「蚖」はドクヘビ、「蛇」はヘビ、「蝮」はマムシ、「蝎」はサソリ。
毒を持つ生き物を、他のものに害を与える「瞋恚（瞋り）」に喩えられています。
瞋りは周囲のすべてを敵にしてしまいます。
体と心に瞋りという毒がまわると、他者を攻撃し、家族や友人との不和の元となります。
戦争の原因も瞋りです。
すべてを破壊する毒が「瞋り」なのです。

妙法蓮華経譬喩品第三

若有衆生。従佛世尊。聞法信受。慇懃精進。求自然慧。楽独善寂。深知諸法因縁。是名辟支佛乗。如彼諸子。為求鹿車。出於火宅。若有衆生。従佛世尊。聞法信受。勤修精進。求一切智。佛智。自然智。無師智。如来知見。力。無所畏。慈念安楽。無量衆生。利益天人。度脱一切。是名大乗。菩薩求此乗故。名為摩訶薩。如彼諸子。為求牛車。出於火宅。舎利弗。如彼長者。見諸子等。安穏得出火宅。到無畏処。自惟財富無量。等以大車。而賜諸子。如来亦復如是。為一切衆生之父。若見無量。億千衆生。以佛教門。出三界苦。怖畏険道。得涅槃楽。如来爾時。便作是念。

〈略〉

譬如長者　有一大宅　其宅久故　而復頓弊　堂舎高危　柱根摧朽　梁棟傾斜
基陛頽毀　墻壁圮拆　泥塗褫落　覆苫乱墜　椽梠差脱　周障屈曲　雑穢充徧
有五百人　止住其中　鵄梟鵰鷲　烏鵲鳩鴿　蚖蛇蝮蠍　蜈蚣蚰蜒

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 22 日
仏滅　虚
旧９月８日
日曜

妙法蓮華経譬喩品第三

蜈蚣（ごくゆうえん）　守宮百足（しゅくうひゃくそく）
鼬狸鼷鼠（ゆりけそ）　諸悪虫輩（しょあくちゅうはい）

「下へ下へと潜る虫＝愚痴」

「蜈蚣」はムカデ、「蚰蜒」はゲジ、「守宮」はヤモリ、「百足」もムカデ、「鼬狸」はイタチ、「鼷鼠」はネズミ。

これらの小動物や虫が下へ下へと潜っていくさまを、小事ばかりを気にして大事を見落とす「愚痴」に喩えています。

つまらないことに夢中になり、善悪の判別がつかなくなってはいませんか。

溢れる情報に埋もれる虫にならぬよう注意！

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月23日 月曜

大安 危
旧９月９日

妙法蓮華経譬喩品第三

不浄流溢（ふじょうりゅういつ）　蜣蜋諸虫（こうろうしょちゅう）

「不浄なものにたかる糞虫＝疑心」

「蜣蜋」は糞虫など排せつ物に集まる虫たち。不浄なものが集まることを「疑心」に喩えています。「疑心」とは善いものを疑う心です。疑心の強い人はつまらない事ばかりに執着して、尊い真実の教えにも疑いを持ち、信じている人をも疑惑に引き込んでしまいます。糞虫が糞尿にたかり、きれいな場所にはいかないように、「疑心」が強いと真実の教えから遠ざかるようになってしまします。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 24 日 火曜

霜降
赤口 室
旧９月 10 日

妙法蓮華経譬喩品第三

狐狼野干（ころうやかん）　咀嚼践蹋（そしゃくせんどう）

「お互いに奪い合う獣＝貪欲」

「狐」はキツネ、「狼」はオオカミ、「野干」はジャッカル。
さらには野犬の群れが、お互いに噛み合い、死骸をかじり合い、骨や肉を奪い合う。
そのありさまを他者と争い、弱者をなぶる浅ましい「貪欲」に喩えています。
以上の「慢心・瞋恚・愚痴・疑心・貪欲」の五つの煩悩は、私たちが生きている中で生じる迷いで、「思惑」といわれるものです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 25 日 水曜

先勝 壁
旧９月 11 日

妙法蓮華経譬喻品第三

魑魅魍魎　夜叉悪鬼

（ちみもうりょう　やしゃあっき）

「自分勝手に欲望を満たす鬼＝邪見」

「魑魅」は山林の気から生じるばけもの、「魍魎」は山・川・木・石などに宿る精霊、「夜叉」は恐ろしい容姿で猛悪な鬼神、「悪鬼」はたたりをなす妖怪。ばけものや鬼たちが、人の肉を食らい、獣や虫とその幼獣や卵を食らい、腹一杯になると悪心が盛んになり、お互い争い闘う。そのさまを、自分勝手に欲望を満たし、自分の幸福だけを求める「邪見」に喩えています。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 26 日 木曜

友引 奎
旧９月１２日

妙法蓮華経譬喩品第三

鳩槃茶鬼（くはんだき）

「否定したことに執着する鳩槃茶鬼＝戒取見」

「鳩槃茶鬼」は増長天の一族の馬頭人身の悪鬼で、足が速く人の精気を吸いとります。鳩槃茶鬼が犬を責めいたぶり楽しむさまを、自分が否定したことに執着し、人のことなど一向にかまわない「戒取見」に喩えています。悪い印象を持ったことに囚われ、理が通っていることさえも否定するようになります。周囲の意見も受け入れることができなくなり、皆が迷惑することになってしまいます。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月27日 水曜

先負 婁
旧９月13日

妙法蓮華経譬喩品第三

発大悪声（ほつだいおんじょう）　叫呼求食（きょうこぐじき）

「自己中心に考える鬼＝身見」

大きな鬼が大声で食物を求めるさまを、万事自己中心に解釈する「身見」に喩えています。たとえば、満員電車の中で込み合うことに不満を持ったとします。自分が混雑の一端をつくっていることを忘れ、他人のせいで混み合っていると腹を立てたことはありませんか？世界が自分中心に動いているように錯覚し、他者のことを考えられない人間が増えると、生きにくい世の中になってしまいます。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 28 日 土曜

仏滅 胃
旧９月１４日

妙法蓮華経譬喻品第三

其咽如針（ごえんにょしん）

「自分の考えに執着し人の意見を聞かない鬼＝見取見」

喉が針のように細い鬼は、自分が断定したことに執着する「見取見」に喩えられます。自分が決めたことに執着して改められずに、思い込みが強くなり、人の忠告も聞かず、反省することもできなくなります。喉が針のように細く食物が通らなくなり始終空腹を覚えるように、他者の意見を受け入れられなくなると、何事にも満足感を得ることができなくなってしまいます。

妙法蓮華経譬喩品第三

蚖蛇蝮蠍　蜈蚣蚰蜒　守宮百足　鼬貍鼷鼠　諸悪虫輩　交横馳走
屎尿臭処　不浄流溢　蜣蜋諸虫　而集其上　狐狼野干　咀嚼践蹋
Ⅱ齧死屍　骨肉狼藉　由是群狗　競来搏撮　飢羸憧惶　処処求食
鬪諍揵掣　唖Ⅱ嘷吠　其舎恐怖　変状如是　処処皆有　魑魅魍魎
夜叉悪鬼　食噉人肉　毒虫之属　諸悪禽獣　孚乳産生　各自蔵護
夜叉競来　争取食之　食之既飽　悪心転熾　鬪諍之声　甚可怖畏
鳩槃荼鬼　蹲踞土埵　或時離地　一尺二尺　往返遊行　縦逸嬉戯
捉狗両足　撲令失声　以脚加頸　怖狗自楽　復有諸鬼　其身長大
裸形黒瘦　常住其中　発大悪声　叫呼求食　復有諸鬼　其咽如針
復有諸鬼　首如牛頭　或食人肉　或復噉狗　頭髪蓬乱　残害兇険
飢渇所逼　叫喚馳走　夜叉餓鬼　諸悪鳥獣　飢急四向　闚看窓牖
如是諸難　恐畏無量　是朽故宅　属于一人

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10 月 29 日 日曜

大安 昴
旧９月 15 日

妙法蓮華経譬喩品第三

叫喚馳走（きょうかんちそう）

「銘々に勝手なことをする鬼＝偏見」

鬼たちが銘々に勝手なことをしているさまは、万事を一方から見て断定する「偏見」に喩えられます。
物事はあらゆる方向から見なければ、正しい解釈には至らないものです。
凡夫は執着の強い方向からしかものを見ることができなくなるので要注意です。
以上「邪見・戒取見・身見・見取見・偏見」の五つを観念上の煩悩「見惑」といいます。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月30日 月曜

赤口 畢
旧９月16日

妙法蓮華経譬喩品第三

塵沙の惑（じんじゃのわく）

「塵や砂のように細かな煩悩」

「見惑」と「思惑」を合わせた凡夫の煩悩を「見思の惑」といいます。
修行が進み「見思の惑」を断ち、悟ったと自負している声聞・縁覚は、塵や砂のように細かな煩悩「塵沙の惑」を見落としがちです。
凡夫が悩みを抱くとき、微細な事情が複雑に絡み合い迷路に入り込むのです。
少し悟ってきたときこそ、迷える人の小さな悩みに寄り添う慈悲の心が大切なのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
10月31日 火曜

先勝 觜
旧９月１７日

妙法蓮華経譬喩品第三

無明の惑（むみょうわく）

「自己に執着する煩悩」

「塵沙の惑」を断ち、人々の悩みに寄り添って救いの手を差し伸べるのが菩薩です。しかし、その菩薩にも根本において自己に執着する「無明の惑」という煩悩があります。「無明の惑」を断ち、自分は悟りを得て智慧があると、自覚も主張もせず人を救うことができるのが仏さまなのです。凡夫の「見思の惑」、声聞・縁覚の「塵沙の惑」、菩薩の「無明の惑」を「三惑」といいます。

妙法蓮華経譬喩品第三

蚖蛇蝮蠍　蜈蚣蚰蜒　守宮百足　鼬貍鼷鼠　諸悪虫輩　交横馳走
屎尿臭処　不浄流溢　蜣蜋諸虫　而集其上　狐狼野干　咀嚼践蹋
＝齧死屍　骨肉狼藉　由是群狗　競来搏撮　飢羸憧惶　処処求食
鬪諍揵掣　唖＝嘷吠　其舎恐怖　変状如是　処処皆有　魑魅魍魎
夜叉悪鬼　食噉人肉　毒虫之属　諸悪禽獣　孚乳産生　各自蔵護
夜叉競来　争取食之　食之既飽　悪心転熾　鬪諍之声　甚可怖畏
鳩槃荼鬼　蹲踞土埵　或時離地　一尺二尺　往返遊行　縦逸嬉戯
捉狗両足　撲令失声　以脚加頸　怖狗自楽　復有諸鬼　其身長大
裸形黒瘦　常住其中　発大悪声　叫呼求食　復有諸鬼　其咽如針
復有諸鬼　首如牛頭　或食人肉　或復噉狗　頭髪蓬乱　残害兇険
飢渇所逼　叫喚馳走　夜叉餓鬼　諸悪鳥獣　飢急四向　闚看窓牖
如是諸難　恐畏無量　是朽故宅　属于一人